

「三田の家」 21世紀的學生街の創出に向けて

長田 進 (経済学部准教授)



▲ 「三田の家」外観



文学部岡原ゼミが、外部企画「カルチュラルタイフーン(2008年6月 仙台にて開催)」で、三田の家での活動を紹介した時の様子



▲ プログラム事例：留学生を中心とした交流会



▲ 三田地域と「三田の家」の位置関係

このプロジェクトは、「三田の家」を舞台として行なう、各種の教育・交流プログラムの総体を意味している。

「三田の家」とは、三田商店街振興組合と共同で運営している交流スペースである。三田キャンパス近くの民家を、大学関係者の有志が自らの手で改装し、2006年9月より一般公開している。複数の教員が各曜日の責任者として、「三田の家」を安全で、かつ開かれた場として機能するように運営している。

現在、「三田の家」を中心として、大学と地域社会の新しい関係の創出をめざして、各種プログラムを展開している。例えば、留学生を中心とした交流イベントの実施や、教室の外で行なう実験的ワークショップの開催などがあげられる。さらに、学生が「三田の家」での活動を元にして学外でもワークショップを開催しており、その活動を支援している。